

令和6年度地方における孤独・孤立対策推進事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

1. 地方版官民連携プラットフォームの構築

令和4年度に官民関係機関と協働して設置した「とくしま孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」において、全体会議や現地学習会、セミナーなどを開催し、プラットフォーム参画団体との情報共有、関係構築を通じた「官民連携での孤独・孤立対策」の一層の推進を図った。（詳細は、「2. 孤独・孤立対策関連事業の実施」③）

また、県内において孤独・孤立対策に取り組む「民間支援団体」が、新たに行う「居場所づくり」や「交流事業」等の取組に対して、経費を支援することにより、官民連携による孤独・孤立対策の強化を図るとともに、経費補助対象団体については、プラットフォームに参画させ、孤独・孤立状態の解消に向けた課題や複雑化・多様化する支援ニーズなどを共有するとともに、公的機関と民間団体の連携体制や支援方法を検討・実施することにより、官民連携による孤独・孤立対策の一層の推進を図った。（※詳細は、「2. 孤独・孤立対策関連事業の実施」⑧）

2. 孤独・孤立対策関連事業の実施

(1) 事業の概要と目的

【③関係者間の活動等に係る情報共有や相互啓発活動】

プラットフォームの目的である「官民連携での孤独・孤立対策」の一層の推進を図るためには、参画団体同士の情報共有や関係構築に取り組むことが重要である。そこで、本県においては、プラットフォーム参画団体を対象とした各種会議等を開催することで、参画団体同士の「支援資源等の情報共有」や「現場担当者レベルの関係構築」に取り組んだ。

【⑧ ⑦の活動を行う団体への支援（いわゆる中間支援）】

民間支援団体が行き組む「新たな孤独・孤立対策」に係る経費を支援し、地域における「居場所づくり」や「交流事業」、「相談体制」など、新たな支援活動の創出を推進するとともに、補助対象団体をプラットフォームに参画させることで、今後の連携支援に向けた情報共有・関係構築にも取り組んだ。

(2) 工夫した点

【③関係者間の活動等に係る情報共有や相互啓発活動】

各種会議等の開催に際して、参画団体がより効果的・実効的に連携できるよう、異なったテーマを設定し、複数回開催した。

【⑧ ⑦の活動を行う団体への支援（いわゆる中間支援）】

民間支援団体への補助に際して、提案事業を公募した上で、採択団体を決定するためにプラットフォーム参画団体も含めた選定委員会を設置することにした。

また、単に支援を行うだけでなく、採択団体についてはプラットフォームに参画させるとと

もに、プラットフォームの会議等で補助事業の内容や成果について報告してもらうことで、プラットフォーム全体の連携支援体制の強化を図った。

(3) 成果

【③関係者間の活動等に係る情報共有や相互啓発活動】

ア プラットフォーム現地見学会(令和6年8月7日)

板野町が設置している「子ども家庭相談支援センター」を開催地として、当センターが行う先進的な不登校支援などの取組内容について、情報共有・意見交換を行った。

イ プラットフォーム情報交換会(令和6年11月20日)

助成事業等を行っている団体等(独立行政法人福祉医療機構、内閣府 休眠預金等活用担当室、内閣府 孤独・孤立対策推進室、一般社団法人大学支援機構、国立大学法人徳島大学大学院 臨床心理情報学研究室)の御担当者の方を講師としてお招きし、資金調達等に関する情報交換を行った。

ウ プラットフォーム成果報告会(令和7年3月11日)

今年度、新たな支援活動に取り組んだ参画団体(補助事業採択団体等)からの取組内容についての紹介や情報交換を行った。

エ プラットフォーム特別講演会(令和7年3月11日)

北九州市でホームレスの方々をはじめ、幅広く自立支援や相談支援等を行う「認定特定非営利活動法人 抱樸」の「奥田理事長」をお招きし、「「ひとりにしない」という支援 一希望のまちを創る」とのテーマのもと、「特別講演会」の開催を開催した。

ア



イ



ウ



エ



【⑧ ⑦の活動を行う団体への支援(いわゆる中間支援)】

「徳島県地域における孤独・孤立対策推進事業費補助金」を交付した。

補助率:10/10、 補助上限:1団体あたり最大30万円、 交付団体数:11団体

(4)事業の課題と次年度に向けての展望(③及び⑧の事業を実施しての総括)

複数の会議や民間支援団体への補助に取り組んだことにより、プラットフォームの活性化につながり、一層の連携支援体制の構築にも繋がった。

今後、さらに連携体制を深め、一人一人が求める支援ニーズに、より適切に対応するため、それぞれの地域の実情に応じて、きめ細やかに官民連携での支援を届ける体制づくりに向け、新たに、県内を東部・南部・西部の3つに分けた圏域ごとの枠組み(圏域サポートプラットフォーム)づくりに取り組みたいと考えている。